

刺胞動物ミズクラゲのストロビレーションに関する分子生物学的研究



ミズクラゲの生活環において、無性世代（ポリプ）から有性世代（クラゲ）への転換が起きる。この転換は胴体部における分節形成および各分節のクラゲへの形態形成をともなう特徴的なステップであり、ストロビレーションと呼ばれる。

本研究ではストロビレーションの分子機構の解明を目的として、ストロビレーション中に発現が変動する遺伝子群を探索し、発現解析をおこなった。その結果、細胞内消化を担うリソソームの内部に存在する2種の酵素がストロビレーション中に発現上昇することを見出した。また、リソソームの機能阻害剤の投与実験により、口側先端に位置する分節のエフィラへの形態形成が特異的に阻害された。これらの結果を受けて、ストロビレーションにおけるリソソームの役割について論ずる。

発表者 辻田 菜摘 (生物圏科学研究科 生物資源科学専攻)
日時 2017年 8月 7日 (月) 15:00-16:00
場所 C315 講義室

問い合わせ先 国吉久人 (水族生化学研究室) 内線: 7948 E-mail: hkuni@hiroshima-u.ac.jp

※ 本学位論文発表会は、生物圏科学研究科の共同セミナーです。